

周年栽培の模範解答

露地栽培が基本ですが、よりよい成果を期待して防虫ネットを利用した栽培をお答えいたします。ただし、栽培の本来の姿を考えれば可能な限り余計なものを使用せずにやりたいものです。でも、クライנגルテン利用者の多くはまだ現役で週末利用がメインとなるため、24時間野菜に張り付いてもいられません。また、ゴルフやテニスと芸も様々。少々文明の利器をお借りすることにして…、さっそく始めましょう。

大根編

8月20日ごろから毎週4回播種します。生育によっては、一週間間隔をあける場合があります。収穫は、10月中下旬から始まります。

1、 播種前準備(一週間前から)

草を取り、牛ふん堆肥を元肥としてスコップ2杯/m²撒き、鍬でこう起する。

注1、このとき、排水不良地でない限り高畝にはしない。高温期の栽培で高畝にすると、地温が上昇し乾燥が激しくなる。さらに厳冬期の土寄せがすこぶるやりにくい。

注2、石灰は春作に撒布してあれば不要。秋冬作にも石灰を使ったほうがよいのは、ハウレンソウのみ。

注3、畝幅は、図1のとおり。

注4、一週間前にここまでの作業を行い、余裕があれば、弓竹並びにネットをかけて、中に“こませ”のネギを入れておくとよい。(ネキリムシ対策)

2、 播種

2-1、4粒/穴とし、4粒は同じ穴に蒔く。株間15cm条間30cm程度。

2-2、第一回、第2回の播種時は盛夏である。高温期には、地中の空気量を少なくし、温度変化を小さくする目的で、播種した種に土をかけた後、上から手のひらで土を押す。(鎮圧する。)

注1、前日までの天候によるが、乾燥が激しい時は、播種後に灌水する。

注2、残り種は、追い蒔きように必ず残すこと。

2-3、早生、晩生を作付けする場合、播種位置は図1のとおりとする。

注1、このとき、1畝2条の北側の条から先に蒔くこと。

注2、汎用性を考えて、弧の長さが180cmの弓竹をお勧めしているが、これは土にさした場合半径がおよそ1mとなり、図1中の幅には合わない。そこで弓竹は、図2のように打ち込む。

2-4、播種後はただちに、ネットをかける。発芽は4,5日後。

3、 発芽後

3-1、 害虫

ネキリムシ（根切り虫）

播種した4粒が確実に発芽していることを確認し、発芽不良の場合は原因をつきとめること。ネキリの場合は、確実に補虫しなければ追い蒔きをして無駄である。

シンクイムシ（芯食い虫）

双葉が展開し本場が見え出す頃、生長点(本葉の出るところ)にくもの巣のようなものが見られたら食害を受けている。ネットに成虫のガが入り込むような隙間がないか確認し、ガを捕虫することと同時に、他の株もよく観察し駆除する。

注5、 追い蒔きは、4本すべて欠株など汚損の場合、まわりの株が本葉2枚目までなら行う。

キスジノミハムシ

この虫の被害は春に多いのが普通で、秋には大きな被害はないものと考えています。

3-2、 病害

昨年は、大きな病害は発生していません。家庭菜園では、心配ないものと思います。

3-3、 その他管理

同一ネットに、早生、晩生を混植する場合、晩生の本葉が5,6枚になるまでネットをつける。

解答の中に、“とう立ち”を心配する答えがありましたが、“トウ立ち”は春の話です。

間引きは、4粒が混み合ったら2度に分けて抜きます。教科書にある本葉の枚数にはあまりこだわらないで下さい。早く間引くならはじめから1粒蒔けばいいわけで、4粒には理由があります。夏期には前述のとおり高温による発芽不良を少なくするため鎮圧します。このとき種の上の土(覆土)を押し上げる力が必要になります。これを複数の種で行うわけです。“3本の矢”の昔話と同じです。と同時にこの間引きが必要になります。加えて、害虫被害が予想されますから、複数あることは安心材料なのです。

目安として、本葉2枚で2本にし、本葉4,5枚で1本にしてください。繰り返しますが、目安です。

4、 ネット外し後

4-1、 モンシロチョウ

付近にキャベツ、ブロッコリーがあれば、必ずチョウチョはそっちに行き、大きな被害にはなりません。葉を裏返して卵まで見つける必要はありません。大きな青虫だけ捕虫して下さい。

ヨトウムシ

同上

メイガ

かぶ、小松菜、白菜で多発しますが、これは局地的で、一つの畝すべてを喰い尽くすことはありません。見つけ次第駆除する程度でよいと思います。

5、 収穫、覆土

10月中下旬に早生から収穫がはじまり、霜が強くなる11月中下旬には、早生を食べ終わります。残った晩生には、早生の条が更地になり隙間が広がりますから、そのスペースの土を鍬で鋤き上げて土を寄せます。後は収穫のみとなり、正月を迎える準備です。

